

おわりに

今回の調査は4月から開始し、毎週火曜日を「福生の日」と決めて会合は原則として福生市内で行いました。会合の回数は現時点で正式なものだけでも28回となり、そのたびに福生市内の飲食店で食事をし、また市民の方々とも触れ合いました。たくさんの方々の魅力的な個店、大賑わいのお祭りなどのイベントに参加することで、私たち自身が、どんどんこの街に魅了されているのを自覚しました。この流れの中で、「多摩ら・び 福生特集」（企画：多摩信用金庫 編集：けやき出版）も10月に発行となりましたが、地域の魅力発見の拠り所のひとつになればと思っています。

調査開始当初、老舗の商店が店を閉じました。福生の名物なので観光資源としても価値があると聞いていました。魅力ある商店の存続は魅力ある街の存続にも関係し、商店主と消費者とのお金を介した相互扶助、いわば身近な地域内での小さな経済循環による「支え合い」が必要なのもかもしれない、そう考えさせられる出来事でした。

今回の報告書を作成するに当たり、中央大学の細野助博教授を始めとする福生市商業活性化検討委員会の皆さまには様々な角度からご指導いただきました。7割を超える回答率で実施できた事業者アンケートでは、商工会や商栄会等に所属する皆さまに多大なるご協力をいただきました。また、道路通行量調査や消費者グループインタビュー等では、延べ34名の市民の皆さまにご協力をいただきました。大学生や地元の福生高校にも快く協力していただきました。皆さまにはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

最後に、この基本調査を最後までお読みいただいた皆さま。私たちのまち「福生」をより一層魅力あふれる街にしていくために、みんなで一緒に頑張っていきましょう。ぜひ！！

2009年12月
スタッフ一同